

仮訳

イマド・キエヤイ

IGD グループ／中東条約機構 (METO)

イラン

プロフィール：

イマド・キエヤイは国際的コンサルティング会社IGDグループの主任として、政治的リスク、軍縮、外交が重なりあう分野での戦略的アドバイスを提供している。また、革新的な政策、提唱活動、教育プログラムを通じて中東からすべての大量破壊兵器廃絶をめざす、中東条約機構 (METO) の所長もつとめている。「大量破壊兵器：不拡散への新しいアプローチ」の共同執筆者。

これまでに、プリンストン大学の科学とグローバルな安全保障プログラム研究員、コロンビア大学国際紛争解決センター助手、アメリカ・イラン評議会の事務局長をつとめた。

世界中から参加の皆さんに、ご挨拶申し上げます。このタイムリーなイベントを主催したみなさん、共同で呼びかけたみなさん、そして重要な役割を果たしているジョゼフさんとチームのみなさんに感謝します。

コロナウイルスの爆発的感染、パンデミックが社会経済と政治に与えている影響により、人類は岐路に立たされています。さらなる格差拡大、不正義と環境の大激変への道を進み続けるのか、それとも、共同の行動への決意を新たにして「核兵器も戦争もない、グローバルな、社会と環境の正義がある世界をつくるのか、私たちは選択を迫られています。

中東は、この点についての典型例です。このプロセスにおいて建設的な役割を果たす上で必要な要素をすべて兼ね備えているのです。すなわち、戦略上の立地条件、豊富な天然資源、そして数千年の歴史を持つ文化とともに、この地域をより良いものに変えるためにたたかう怖いもの知らずの若い世代の存在です。しかし同時に、中東は有害な民族的、宗派的、国家的、宗教的狂信にあおられ、破壊と不和を助長し拡散する要素も持っています。

私たちが今日目にしている大規模な転換は、**何が可能で、どうしたらそれができるのか、誰がその過程で私たちを助けることができるのか、そしてなぜ、今が行動する時なのか**について、もう一度考え発想を広げる、またとない機会を提供しています。

平和と安全保障での地域協力への入り口として、中東からすべての大量破壊兵器 (WMD) を廃絶するとりくみから始めましょう。これは、より広範な、国境を越えた環境、社会、経済の課題での協力への橋渡しとなります。

私たちは、大量破壊兵器、すなわち核兵器、生物・化学兵器が人類全体と地球の生存への脅威であることを知っています。しかし、他のどこよりも中東でこそ、これらの兵器を廃絶し拡散を食い止めることが緊急に求められているのです。

幸運なことに、私たちは、ゼロから始める必要はありません。必要なことは、30年前の1990年、イランの支持を得てエジプトが提案した、中東に非大量破壊兵器地帯を設置する

という数十年来の構想を実現するプロセスに再び活力を与え、その手立てを一新し、再構築することです。

このプロセスは協力と信頼、友好の原則によって立つものとし、平和、安全、繁栄への動きを妨げているこの地域の国々の間に存在する敵意と誤解を取り除く必要があります。そうすれば、非大量破壊兵器地帯は不拡散の努力を強化することに貢献するだけでなく、この地域が直面しているより広範な課題についての議論を可能にするでしょう。

要するに肝心なことは、世界の大国の支援を得て、イランとイスラエルに加えて中東とアフリカのアラブ22カ国すべてが参加するプロセスで交渉される**条約**が必要だということです。そして、ゆくゆくは条約の履行、検証、順守を監視する**地域機構**の設置が必要となるでしょう。

良いニュースがあります。現在、非大量破壊兵器地帯の実現を支持するさまざまなイニチアチブがおこなわれています。1995年の**核不拡散条約 (NPT)** 無期限延長に結び付いた従来の道筋には、地帯設置への国際社会の支持が必要です。残念ながら、この間条約の条文案についても、地域機構の設置についても、ほとんど進展はありません。

より有望な、補完的な外交プロセスが最近スタートしました。2019年11月、**非大量破壊兵器地帯設置に関する第1回国連会議**が開催され、中東とアフリカの22のアラブ諸国すべてと、イランおよびアメリカを除く国連安全保障理事会の常任理事国が参加、イスラエルとアメリカの欠席が目立ちました。この重大な転機となる会議は今後、すべての当事国が参加しコンセンサスによって進行するプロセスを通じて**条約の条文**の交渉が終わるまで、毎年開かれます。

こうした外交プロセスは時間がかかりますが、私たち市民社会が待つ必要はありません。**私たちは柔軟に自由に行動していいのです、それは今です！**

それはまさに、地域内外の活動家、学者、夢見る人々が一体となって、私もその一人ですが、始めていることです。私たちは他に先がけて、柔軟で様々に対応可能な**条約の条文案**を起草し、**中東条約機構 (METO)** と名付けた準備組織をつくりました。

条約の条文案とMETOは、市民の外交、提唱活動、有力は学術・政策組織によって支えられ、すでに地域内外の各国政府や市民社会に何が**可能か**、そして前進への道をつくるためにどのような役割を果たすことができるのかを想像する力を与えています。

現実はどうか。私たちは甘い認識を持ってはいませんし、私たちが進む道には手ごわい障害があることも、わかりすぎるほどわかっています。どのように、いつ、非大量破壊兵器地帯を実現するかというプロセスをめぐってのつきることのない意見の不一致から、大量破壊兵器の拡散のリスクや中東が直面する地政学的現実にいるまで、大きな障害があります。

いくつか例をあげてみましょう。イスラエルの核兵器独占と、主要な中東諸国の自国の大量破壊兵器の能力を強化することで平等な**条件を確保**しようとする努力。シリアでの2011年の抗議行動以降、数回におよぶ化学兵器の使用と、これらの兵器の貯蔵をやめ責任者の処罰を求めるたたかい。アメリカのイラクとアフガニスタンに対する戦争とアラブの春による地域の不安定化が、過激派とテロリストグループの台頭を招き、違法な取引、移

転、使用による大量破壊兵器拡散の脅威をもたらしていること。2015年のイランと大国による核合意が、2018年にトランプの一方的な離脱により、解除された制裁の復活とさらに過酷な制裁を実行したことで弱体化し、イランの経済を損ない、8000万人を超えるイラン国民全体に対して処罰を加える結果となっていること。

以上述べたことは、より広範な政治的緊張と並行して起こっており、地域の不安定を助長し、非大量破壊兵器地帯への進展を妨げています。これらの安全保障上の課題には、中東を軍事化している世界の大国の役割も含まれます。アメリカとロシアはこの地域のそれぞれの同盟国に兵器を売り、軍事支援をすることで最大の分け前にあずかっているのです。宗派主義と思想上の違いにあおられた地域内の対立も多く、特にイランとサウジアラビアの対立が深刻です。さらに、パレスチナ対イスラエル、そしてより広くアラブ対イスラエルの紛争の解決に失敗してきたことが、不信を招き、中東における急進化の原因になっています。チュニジアからシリアまでアラブ世界を席卷した一連の抗議行動と、それがもたらした混乱は、地域の安全、安定、地政学的配置を揺るがし、政治的力関係を変えています。

今後進むべき方向：拡散のリスクを少なくし、非大量破壊兵器地帯を実現すれば、これまで指摘してきた根深い困難な課題を解決する地域の努力に新たな力となります。非大量破壊兵器地帯には、より緊密なコミュニケーションの手段を構築し、緊張と不信を緩和することによって多国間や二国間の新しい関係をつくる、地域の諸国の努力が必要です。こうした新しい地政学的動きは、世界で最も戦略的立地条件にある、天然資源と人的資源の両方に恵まれた地域がもつ社会的、経済的、文化的な積極的潜在力を解き放つことができるでしょう。地域内の関係改善から生まれる新たな希望をもって、防衛への過剰な支出もなくなり、莫大な資源をより高い影響をもたらす人間の開発に使うことができるようになるでしょう。

行動を呼びかけます：パンデミックは、私たちが真につながり合っているということ、私たちの行動の影響が世界中に波及することを示しています。今日私たちが選ぶ道は、より大きなスケールで人類全体の運命を決めるのです。ですから中東に蔓延した不正義、不安定、大量殺戮は、今後も引き続き私たちの社会のあらゆるレベルで現れるでしょう。行動しないことはもはや選択肢にはなりません。私たちがここに刻まれている「公正な世界、社会、気候を実現し、核兵器も戦争もない世界を」という崇高な目標を本当に実現しようとするならば。

私はみなさん全員に、私たちとともに行動することを呼びかけます。あなたの連帯、支援と参加が、私たちが実現できることに疑問を投げかける一見強力な反対論者に対して、私たちがより強くしなやかに立ち向かう力を与えてくれるのです！

ありがとうございました。